

斎賀医院壁新聞

文献情報と医院案内 斎賀医院ホームページに戻る場合戻るボタンをおしてください

検索ボックス

<< 2022年11月 >>

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

最近の記事

- (11/14)[ネット情報より](#)
- (11/12)[新型コロナ・ワクチン接種に関して CDCより 感染後は3か月の間隔がよいかも](#)
- (11/11)[新型コロナに罹った人はブスター接種の効果減少？](#)
- (11/07)[心筋炎](#)
- (11/05)[変形性膝関節症にウオーキングは有効](#)

最近のコメント

- [インフルエンザワクチンのQ&A](#) by (10/18)
- [副腎偶発腫瘍 \(incidentaloma\)の発生頻度](#) by (10/14)
- [ネット情報・8月5日](#) by (08/06)
- [オミクロン株の変異の猛威](#) by (07/21)
- [オミクロン株でクルーズ症候群は起きるのです。 その2](#) by (06/06)

タグクラウド

カテゴリ

- [小児科](#)(229)
- [循環器](#)(255)
- [消化器・PPI](#)(150)
- [感染症・衛生](#)(285)
- [糖尿病](#)(132)
- [喘息・呼吸器・アレルギー](#)(102)
- [インフルエンザ](#)(109)
- [肝臓・肝炎](#)(62)
- [薬・抗生剤・サプリメント・栄養指導](#)(51)
- [脳・神経・精神・睡眠障害](#)(48)
- [整形外科・痛風・高尿酸血症](#)(34)

[<< 筋萎縮性側索硬化症 \(ALS\) その1 | TOP | 早期前立腺癌の根治手術と経過観察 \(積極的監視\) の比較 >>](#)

2017年07月22日

アナフィラキシーのアドレナリン過剰投与に対する警告

アナフィラキシーのアドレナリン過剰投与に対する警告

Adrenaline overdose in pediatric anaphylaxis: a case report



食物アレルギーを含めてアナフィラキシーにはエピペンをはじめ、アドレナリンの筋肉注射が第一選択です。

今回、BMCよりアドレナリンの過剰投与の症例が報告されています。

簡単に症例をまとめてみますと、

9歳の男児(32kg)で喘息の既往もあり、以前より乳製品の食物アレルギーを有していました。

すっかり学校で乳製品を食べてしまいました。

その直後に蕁麻疹、喘鳴、ショック状態となり、アナフィラキシーの診断の基で学校の先生が

エピペン300μを筋注し、サルタノールの吸入を行っています。

ここで救急車が到着していますが、未だ意識は朦朧として脈拍は120、SPO2は85~90、血圧は測定できていません。更なるエピペン300μを筋注していますが、不反応とし、2回のアドレナリン静注を施しています。

その後、救急病院に転送されています。

病院に到着時には興奮しており、頻回の嘔吐を繰り返し、血圧は207/87、脈拍は160、末梢循環不全でSPO2は測定できません。

アドレナリンの過剰投与を疑ってアドレナリンの点滴を中止。その後、30分で血圧は安定。

しかし喘鳴は続いており、ステロイドの点滴を開始して呼吸状態も回復しています。

論者は述べています。

「アナフィラキシーではアドレナリンの筋注は第一選択であり又、静注より安全であるが、アナフィラキシーとアドレナリンの過剰投与とは症状だけでは似ており、注意が必要である。その際に血圧の管理は最も重要だ」

[ワクチン](#)(81)
[癌関係](#)(11)
[脂質異常](#)(29)
[甲状腺・内分泌](#)(20)
[婦人科](#)(12)
[泌尿器・腎臓・前立腺](#)(41)
[熱中症](#)(7)
[日記](#)(24)
[その他](#)(83)

過去ログ

[2022年11月](#)(7)
[2022年10月](#)(15)
[2022年09月](#)(13)
[2022年08月](#)(17)
[2022年07月](#)(13)
[2022年06月](#)(15)
[2022年05月](#)(15)
[2022年04月](#)(14)
[2022年03月](#)(15)
[2022年02月](#)(14)
[2022年01月](#)(16)
[2021年12月](#)(14)
[2021年11月](#)(17)
[2021年10月](#)(17)
[2021年09月](#)(13)
[2021年08月](#)(16)
[2021年07月](#)(12)
[2021年06月](#)(16)
[2021年05月](#)(16)
[2021年04月](#)(14)
[2021年03月](#)(18)
[2021年02月](#)(19)
[2021年01月](#)(16)
[2020年12月](#)(17)
[2020年11月](#)(15)
[2020年10月](#)(17)
[2020年09月](#)(19)
[2020年08月](#)(14)
[2020年07月](#)(17)
[2020年06月](#)(14)
[2020年05月](#)(21)
[2020年04月](#)(18)
[2020年03月](#)(18)
[2020年02月](#)(18)
[2020年01月](#)(19)
[2019年12月](#)(14)
[2019年11月](#)(15)
[2019年10月](#)(18)
[2019年09月](#)(18)
[2019年08月](#)(14)
[2019年07月](#)(14)
[2019年06月](#)(16)
[2019年05月](#)(14)
[2019年04月](#)(18)
[2019年03月](#)(19)
[2019年02月](#)(19)
[2019年01月](#)(15)
[2018年12月](#)(16)
[2018年11月](#)(20)
[2018年10月](#)(20)

以降はカテゴリーで検索してください。

[RDF Site Summary](#)
[RSS 2.0](#)

私見)

学校の先生と救急隊員の協力はアナフィラキシーの即時の治療には今や欠かせません。本症例は日本では考えられない事例と思います。

しかし、現在あるエピペンは体重設定では不便を感じます。多くの医師はボスミン（アドレナリン注射薬）

での苦い経験を持っていると思います。

もちろんこの場面はアナフィラキシーではありませんが、少量頻回投与の設定もありではないかと思っています。（例えば、50、100、150μの3パターンの組み合わせで2回接種）

しばらく、本院では自前の注射も含めて対応してまいります。

[anaphylaxis a case report.pdf](#)

[エピペン.pdf](#)



【小児科の最新記事】

[ファイザー6か月～4歳用ワクチンの開始](#)
[生後6か月から5歳のモデルナワクチンの評..](#)
[乳幼児の発熱管理](#)
[小児のLong COVIDに対するガイド..](#)
[小児の急性中耳炎の第一選択薬はペニシリン..](#)

posted by 斎賀一 at 15:51 | [Comment\(3\)](#) | [小児科](#)

この記事へのコメント

現場ではマニュアル通りにしか出来ないの
専門的な知識がない分、症状によって応用が効かないのが難しいところですね。

Posted by at 2017年07月22日 16:40

アナフィラキシー怖いですが...(-_-;)

何かあれば、先生のところにすぐに行ける距離にいつもいるので安心しちゃってます(^_^)v

Posted by at 2017年07月22日 22:36

今日は職場がお休みだったのですが、雑用に午前中に行ったら、開店前の時間から電話が鳴りっぱなしで(-_-;)

休みのテロップが流れていたの、違う方からの電話だったと思うのですが...

なんか電話が鳴る度に緊張してきて、アドレナリンが出っぱなしで疲れました..(-_-)

休み明けが恐ろしいです...(>_<)

Posted by at 2017年07月22日 22:46

